

特集

薬剤部

現在の医療において、医薬品を使用しない治療は存在しないと言っても過言ではありません。医療の現場では数多くの医薬品が使用されており、薬剤師はこれらの医薬品が安全かつ効果的に行われるよう、「薬」の専門家として様々な医療現場で必要とされています。そこで、今号では本院薬剤部の業務の紹介や安全に対する取り組みについてご紹介します。



◎ 病院薬剤師のお仕事とは？

「くすり」という文字を逆に読むと「リスク」という文字になります。治療を行ううえで薬は必要不可欠な存在ですが、副作用などのリスクも有しています。薬剤部では、安全で効果的に薬物治療が行えるよう、薬の専門家としてその知識と技術をフル活用し、日々の業務にあたっています。

本院薬剤部は、薬務室、調剤室、製剤室、試験室、麻薬室、薬品情報室、薬品安全対策室で構成されています。各部署では、医薬品の調剤や管理、処方された薬が適切かを確認する監査、市販はされ

ていないが治療上必要とされる薬剤を製造する調製、最新の医薬品について情報の提供などあらゆる側面から「薬」が安全かつ効果的に使用されるようサポートしています。また、入院患者さんに対する服薬指導や持参薬・アレルギー・副作用歴などを確認し、医師や看護師に情報を提供することも薬剤師の重要な仕事の一つです。

使用を誤ると重大な副作用発現の危険性がある抗がん剤などは、厳格な取り扱いが必要となります。本院では、全ての

外来・入院患者さんを対象に、抗がん剤のレジメン(投与する薬剤の種類や量、期間、手順などを時系列で示した計画書)のチェック、混合調製を専任の薬剤師が行っています。

また、様々なチーム医療にも薬剤師は参画しています。感染対策チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、褥瘡対策チームなど、チーム医療の一員として、薬の専門家としての見地から、提案や情報提供を行っています。

徳島大学病院
薬剤部

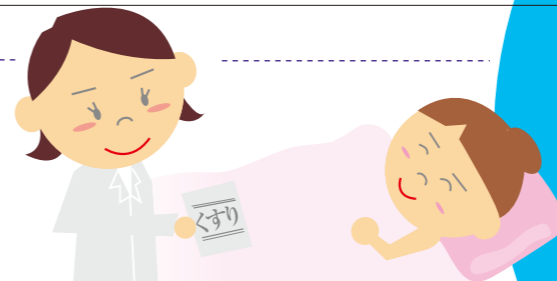
薬務室

調剤室

製剤室

試験室

麻薬室

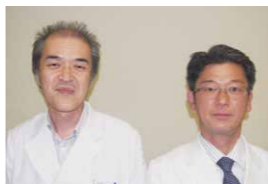
薬品
情報室薬品
安全
対策室

◎ より安心して 治療を受けられるために

平成21年度からは、ほぼ全病棟に専任の薬剤師を配置し、入院患者さんに対して持参薬の調査や服薬指導をはじめとした病棟活動を行うことが可能となりました。また本年度から、一部の病棟で薬剤師の配置体制を見直し、より安全で効果的な薬剤治療を行うための取り組みが始まっています。

また、処方された薬剤の取り違いを防止するため、本年4月から「全自動PTPシート払出装置」を導入しました。この装置は保管されている薬を処方に応じて自動的に払い出す装置です。今までは、調剤担当が処方箋を確認し、保管された棚から取り出し、確認した後に、監査担当がチェックを行っていましたが、さらにこの装置を導入することで、トリプルチェックに近いものとなり、より安全な薬の調剤を行うことが可能となりました。

また、注射薬の払い出しでは「オートアンプルディスペンサー」(注射薬を袋詰めする装置)を導入しており、人間の力と最新機械の力の両輪で医療事故防止、リスクマネジメント向上に取り組んでいます。



説明は、
徳島大学病院 薬剤部
(右) 中村 敏己(なかむら としみ)
薬剤師
(左) 溝口 徹也(みぞぐち てつや)
薬剤師

薬剤部は、
安全で効果的な
薬物治療を
サポート!

